



プログラミング教育の拡充へ 協定書調印式



▲左から荒木校長、中村市長、村山理事長

8月5日、市役所鏡支所でプログラミング教育に係る連携協力に関する協定書の調印式が行われ、熊本高等専門学校、宮嶋利治学術財団、本市の3者で協定を締結しました。

この協定は令和2年度から全小学校でプログラミング教育が実施されることに伴い、科学と教育の振興のため、連携・協力していくものです。熊本高等専門学校の荒木啓二郎校長と宮嶋利治学術財団の村山忍理事長は「八代の子どものためのプログラミング技術向上のため支援していきたい」と述べました。

かじとりは任せて DMOやつしる企画 こども船頭体験



▲船頭気分を楽しむ参加者

8月3日、八代城跡のお堀で、令和元年夏休み特別企画「八代城跡お堀舟巡り・こども船頭体験」が行われました。これは、不定期で「八代城跡お堀舟巡り」を企画しているDMOやつしるに、船頭体験を希望する声が多数寄せられ、実現したものです。

当日は順番待ちが出るほどのにぎわいで、子どもたちは初めての舟の操作に悪戦苦闘しながら挑戦していました。作本翔太さん（太田郷小3年）は、「上手く操作できず大変だったけど、また挑戦したい」と話しました。

八代・天草シーラインの実現へ 八代・天草架橋建設促進総決起大会



▲架橋実現に向けて結束を強めました

8月3日、鏡文化センターで八代・天草架橋建設促進総決起大会が開催され、市民や県・市町村の関係者ら約700人が架橋の建設に向けて機運を高めました。

この架橋は観光、物流の発展はもちろん災害発生時の天草地域と九州本土を結ぶ代替ルートとしても期待されています。

架橋の早期実現を図ること、架橋を八代と天草とを結ぶネットワークとして位置づけること、架橋構想の名称として「八代・天草シーライン」を用いることなどが決議されました。

五家荘の雰囲気を感じながら 第8回秘境五家荘山唄日本一大会



▲歌詞の意味をかみしめながらうたう参加者

7月28日、振興センターいずみで「第8回秘境五家荘山唄日本一大会」が開催され、101人が高年・中年・壮年の部に分かれて自慢の喉を競いました。

秘境「五家荘山唄」は五家荘の自然の美しさや平家伝説をはじめとした歴史、住人たちに対する思いが込められた唄です。参加者は尺八の伴奏に合わせて、唄に込められた思いを感じながら、心を込めてうたいました。各部門の優勝者の中から、総合優勝に大津町から参加した高見春代さんが選ばれました。

公園をきれいに 公園樹木の剪定ボランティア



▲高所作業車を使って手際よく剪定を行う会員の皆さん

7月27日、八代市造園防災協議会の会員14人が古町児童公園（千反町一丁目）の樹木の剪定を行いました。

会員らは造園業の技術を生かして剪定作業を進め、道路に張り出した枝や電線にかかりそうな枝などを切り落とし、剪定くずを手際よくトラックに積み込みました。作業終了後、すっきりとなった景観に同協議会の上野保夫会長（上野松豊園）は「台風が多い季節の前にできてよかった。今後も活動を続けていく」と笑顔で話しました。

畳でおもてなし 松浜軒へ熊本県産畳表寄贈



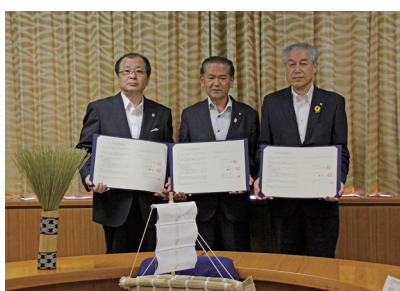
▲松井さん（左）と田島組合長（右）

7月19日、熊本県い業生産販売振興協会と熊本県いぐさ・畳表活性化連絡協議会が松浜軒に八代産高級畳表「涼風」33畳を寄贈しました。

寄贈式で、協会と協議会の代表を務める田島幹生八代地域農業協同組合長は「天然の国産畳で外国人観光客におもてなしをしてほしい」と話すと、松井家14代当主松井葵之さんは「大切に管理したい。ありがたうございます」とお礼を述べました。

今回寄贈された畳表は、茶会や能の練習に使用される大広間の畳表と張り替えられました。

い産業の活性化のために 八代産畳表振興に関する協定調印式



▲左から重松代表取締役社長、中村市長、藤本町長

8月19日、市役所鏡支所で八代産畳表振興に関する協定調印式が行われ、国内大手の畳資材取り扱い商社である山中産業と氷川町、本市の3者で協定を締結しました。

この協定は、畳表の振興を通じた「八代産畳表の認知度向上・需要拡大」や「い産業の活性化」に向けて互いに連携し、さまざまな取り組みを進めるものです。

調印式では中村博生市長が「官民一体となつて取り組み、八代産畳表の良さを多くのの人に知ってもらいたい」と期待を述べました。

八代方面隊本部分団が優勝 第6回熊本県女性消防操法大会



▲標的めがけて放水

8月18日、球磨川河川緑地で第6回熊本県女性消防操法大会が行われ、12市町の13隊がポンプ操法の素早さ、正確さを競いました。

各隊が整列・点呼から放水までを迅速、正確に行い、練習の成果を披露する中、八代市消防団八代方面隊本部分団が2大会ぶりに優勝し、11月13日に神奈川県で開催される全国大会出場を決めました。同分団で2番員を務めた野田貴美子さんは「敗戦した消防隊の思いも背負って、全国大会では優勝を目指して頑張ります」と意気込みました。

遊具をきれいに ボランティア塗装



▲慣れた手つきで塗装する組合員

8月8日、八代塗装・防水組合が太田郷幼稚園で遊具の塗装を行いました。

同組合は平成19年からボランティア活動として、市内の公園や小中学校、幼稚園の遊具や体育施設の塗装をしています。この日は12人がやすりやスクレーパーを使って遊具についたさびを落とし、子どもたちが、けがをしないよう滑らかに整えました。その後、さび止めとペンキが丁寧に塗られ、遊具はきれいに生まれ変わりました。同組合の永田正常組合長は「子どもたちに楽しく遊んでもらいたい」と話しました。

地元高校選手ら活躍 感動は無限大 南部九州総体2019



▲八代白百合学園高校の郡司選手

全国高等学校総合体育大会南部九州総体2019が開催され、本市ではバドミントン競技が8月1日から5日まで、アーチェリー競技が8月7日から10日までの期間で行われました。

会場では選手たちが熱戦を繰り広げ、多くの観客らが選手たちに熱い声援を送りました。

バドミントンでは女子シングルスで郡司莉子選手（八代白百合学園高校2年）が優勝。男子シングルスでは野田統馬選手（八代東高校3年）が準優勝、男子ダブルスでは野田選手と浦降斗選手（八代東高校3年）のペアが3位入賞でした。

市の発展に寄与 令和元年度八代市有功者表彰式



▲八代市有功者表彰式に出席した皆さん

8月1日、鏡文化センターで令和元年度八代市有功者表彰式が行われました。

これは、毎年8月1日の市制施行記念日に市政に功績のあった人を称えて表彰を行うもので、今年は消防団分団長や介護認定審査会委員など39人が表彰を受けました。

中村博生市長が「より良い地域社会の確立のために、真摯な活動をいただき感謝しています」と式辞を述べると、表彰者を代表して増田一喜市議会議員は「それぞれの分野でより一層努力して参ります」と謝辞を述べました。

鏡町の未来について語り合う 子どもの目線・感性活用事業



▲グループで出た意見を発表する中学生

7月30日、鏡コミュニティセンターで鏡町の未来について語り合う研修会が開催され、同町の小中学生20人が意見を出し合いました。

これは、町の将来像やよりよい町にするためについて意見を出し合い、まちづくりに生かそうと鏡まちづくり協議会が企画しました。

参加者は5人のグループにそれぞれ分かれて話し合い、議論の中では「鏡町は農業が盛んなので就業体験や農業体験を行ってはどうか」、「夏休みに子どもと高齢者が触れ合う機会を設けたらどうか」などの提案が出されました。